

河北町地域公共交通計画【概要版】(案)

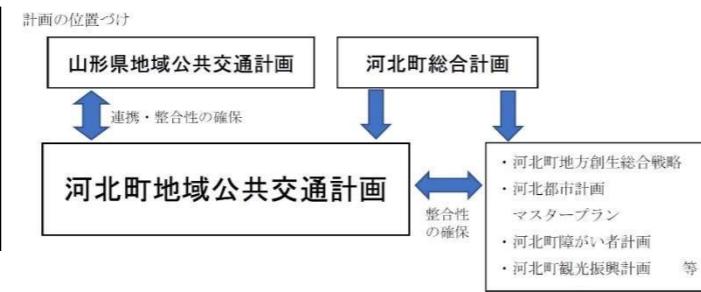
1 地域公共交通計画の概要

(1) 計画策定の趣旨

河北町では、町営バスや路線バス、タクシーが地域交通を支えていますが、少子化や人口減少により利用者が減少し、運行の維持が難しくなっています。また、働き方改革等の社会環境の変化により交通事業者の運転手確保の課題が浮上しています。公共交通の維持・確保、利便性向上、再構築が求められ、教育や医療の変化に対応する必要があります。また、観光客の移動手段の確保も重要です。町民が快適に生活できる持続可能な公共交通の構築を目指し、「河北町地域公共交通計画」を策定します。

(2) 計画期間及び計画の対象地域等

計画期間	令和8年度～令和12年度（5年間）
対象地域	河北町内全域（西里、溝延、北谷地、谷地西部、谷地中央、谷地東部線沿線地区）、東根市的一部分（JRさくらんぼ東根駅及びおいしい山形空港）、寒河江市の一部（JR寒河江駅）



2 地域公共交通に関する現状を踏まえた課題

(1) 町営バス

- 平日の夕方以降、土日祝日はほとんどの路線が運行しておらず、気軽に利用可能な移動手段がない。
- 朝1便目は通学利用を想定した早い運行時刻にしているが、学生の利用者数が少ない路線がある。
- 利用者数が1便あたり1人未満の路線や、1人あたりの輸送コストが膨大な額の路線がある。



(2) タクシー利用助成制度（べにのすけタクシー）

- 地区によって利用に偏りがあり、制度の周知が十分にできていない可能性がある。
- 対象日が平日のみのため、土日祝日に利用できない。

(3) 路線バス（山交バス）

- 土日祝日の運行が取りやめとなり、休日の寒河江方面への移動手段がなくなった。
- 路線維持のためには、利用者数全体の底上げを図る必要がある。特に町内区間（河北病院バス停～谷地所岡バス停）の利用者数が少ない状況にある。

(4) 乗用タクシー（葉山タクシー）

- 平日朝の通院や買い物等の移動ニーズが集中する時間帯にタクシーの予約が取りにくい。
- タクシーや町営バスの運転を担う運転手が不足している。

(5) おでかけカルテ・アンケート

- 子供の通学送迎に対する負担感がある。
- 平日の夜間や休日に、河北町と寒河江市を結ぶ新たな移動サービスのニーズがある。

(6) 住民懇談会

- 上記の他に、小学校・病院の統廃合への対応や開業医の高齢化に伴う廃業への心配などの意見があった。
- また、現時点では運転出来るために、当事者意識や危機感を余り実感出来ていない。



住民懇談会の様子

(R 7.8.20)

3 基本方針

(1) 基本理念

河北町の地域公共交通とは何かを、基本理念として示します。

町民一人一人のいきいきとした生活を支え、町の魅力を活かす移動手段

(2) 基本方針

基本理念に則り、河北町の地域公共交通が果たす「役割」を方針として定め、地域公共交通施策を進めていきます。

通学を支える 移動手段 基本方針1

河北町に住む子どもたちが、町内の小学校・中学校、谷地高校に通うことはもとより、河北町に住み続けながら寒河江市・東根市・山形市といった町外の高校、大学・専門学校等にも通うことができるようになります。
加えて、町内唯一の高校である谷地高校が永続的に活力ある教育活動を展開できるよう、河北町外に住む子どもたちが谷地高校に通うことができるようになります。

生活を支える 移動手段 基本方針2

地域の積極的な協力・連携のもと、河北町内中心部の商業施設・医療機関・公共施設へ各地区からのアクセスと町内施設間の行き来ができるようにし、河北町で安心して住み続けられるための基盤となります。
加えて、寒河江市へ整備される西村山新病院や東根市の商業施設のほか、鉄道等とも連携しながら山形市内の商業施設や医療機関も含めて、町民が町外施設へアクセスできるようになります。

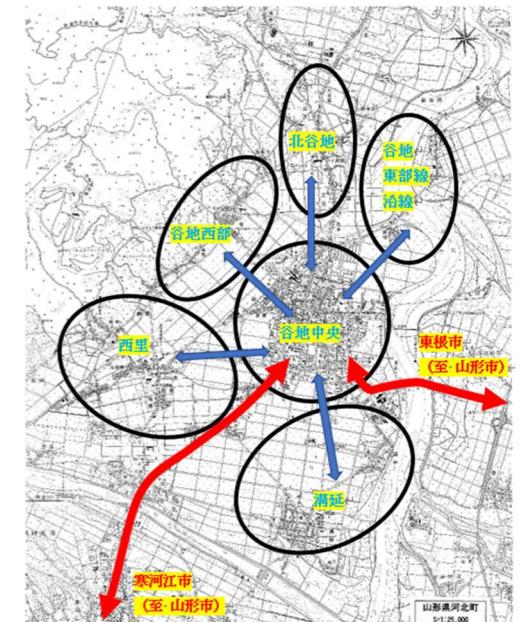
観光を支える 移動手段 基本方針3

魅力あふれる河北町の観光振興の基盤となるよう、滞在型観光の拠点・体制整備の中で、観光客が町内観光資源や宿泊施設等の行き来をはじめとする町内周遊をできるようになります。併せて、広域周遊にもつなげられるようになります。

（3）地域公共交通ネットワークの形成

本計画で定めた基本理念及び基本方針や課題整理の結果を踏まえ、地域の特性や時間帯などに合わせて様々な移動手段を組み合わせることで、河北町内外の移動に使いやすい地域公共交通ネットワークを形成していきます。

地域間幹線	町が主導で整備しつつ、利用促進をはじめ一部取り組みは地域とも連携・協力して
河北町 ↔ 寒河江市	山交バスと町営バスの組み合わせによる平休日の運行確保（早朝・夜間の運行は地域とも連携・協力が必要）
河北町 ↔ 東根市	町営バスと東根市民バスの組み合わせによる平休日の運行確保（早朝・夜間の運行は地域とも連携・協力が必要）
谷地中央地区内	町と地域が連携・協力して、様々な移動手段を組み合わせて
谷地中央地区↔ 町内周辺各地区	町と地域が連携・協力して、様々な移動手段を組み合わせて



地域公共交通ネットワーク（イメージ図）

河北町地域公共交通計画【概要版】(案)



(4) 本計画の位置づけ（5年後の大きな変化を見据えたプロローグ）

本計画で定めた地域公共交通ネットワークの形成の実現には、3つの課題があります。

①担い手（運転手・従業員）不足

②5年後の学校・病院の整備による町民の移動方法の大幅な変更が想定されること

③地域の積極的な協力・連携が必要という意識醸成に時間がかかること

以上を踏まえ、河北町の地域公共交通施策における本計画の位置づけを以下のように定めます。

本計画は、河北町の地域公共交通の基本理念を実現するために必要な5年間の準備作業を定めるものとします。

向こう5年間は、現状の体制できる中で、地域とともに様々な試行錯誤を行いながら、町内6地区にふさわしい地域公共交通を見出していく。観光客の町内周遊についても、町内観光施設や宿泊施設等の協力・連携のもとで試行錯誤を重ね、観光振興を支える移動手段の実装へつなげます。加えて、公共交通の担い手である運転手確保・運行体制強化を行い、5年後の統合小学校及び西村山新病院の整備に伴う移動需要の変化を見据えた準備期間とします。

(5) 5年間の取り組み方針

本計画の位置づけに基づき、計画期間中の5年間の具体的な取り組み方針を以下のとおりに定めます。

取り組み方針1 谷地高校生と町内在住高校生の通学手段確保

取り組み方針2 通院等の生活を支える移動手段に必要となる運転手確保・運行体制強化

取り組み方針3 地区毎の生活交通へのニーズと来訪者の二次交通へのニーズに対応できるモビリティトライアル

(6) 河北町モビリティトライアル

町内6地区それぞれにふさわしい地域公共交通を見出すにあたり、「河北町モビリティトライアル※1」により地域とともに進行トライアルの方針を定めます。地域の状況やできる範囲を踏まえながら、町内6地区それぞれに合ったステージの取り組みを進めています。観光客の町内周遊を支える移動手段の実装にあたっても、本方針のもとで町内観光施設や宿泊施設等の協力・連携体制構築を図ります。

ステージ	取り組み内容	図示
4	各地区で考えた移動手段を自分たちで運行している。	
3	各地区でより良い移動手段を行政等と一緒に考えている。	
2	各地区で公共交通（バス・べにのすけタクシー等）の勉強会や乗車体験会を実施している。	
1	各地区で公共交通（バス・べにのすけタクシー等）の周知へ協力している。	
0	各地区で特に取り組んでいる事はない。	

※1 各地区にふさわしい地域公共交通を見出すために、各地区で実施する地域公共交通に関する取り組みを表現した造語

4 目標、目標を達成するための施策

(1) 目標

本計画で定めた基本理念及び方針の実現に向けた目標を、5年間の取り組み方針に基づき設定します。

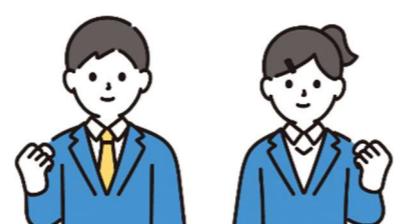
■目標1：町内6地区から町内外高校等への「通学しやすさ」の向上

■目標2：河北町外から谷地高校への「通学しやすさ」の向上

■目標3：地域公共交通に従事可能な運転手数の確保

■目標4：利用者1人当たり運行経費の基準額内への抑制

■目標5：河北町モビリティトライアルの持続的な実施



(2) 目標を達成するために行う施策

目標を達成するために行う施策は次の通りです。

谷地高校生と町内在住高校生の通学手段確保 取り組み方針1

通院等の生活を支える移動手段に必要となる運転手確保・運行体制強化 取り組み方針2

地区毎の生活交通へのニーズと来訪者の二次交通へのニーズに対応できるモビリティトライアル 取り組み方針3

施策1：休日に河北町と寒河江市との間を結ぶ新たな移動手段を導入します
(山交バスが運行していない休日に、町が運行します)

施策2：平日の交通空白時間帯における河北町内と寒河江市との間を結ぶ新たな移動手段を導入します
(山交バスが運行していない夜間や、接続困難な早朝に町が運行します)

施策3：「べにのすけタクシー ジュニア（仮称）」を新たに運行します
(若年層向けのタクシー利用助成制度を新たに始めます)

施策4：地域公共交通の運行に必要な運転手を確保します
(運転手不足に陥らないよう、計画的な運転手確保に努めます)

施策5：町営バスや「べにのすけタクシー」等の利用状況に関するデータを取得・活用します
(利用状況に関するデータを取得し、運用の見直しに活用します)

施策6：「べにのすけタクシー」を休日にも運行します
(高齢者向けのタクシー利用助成制度を休日も対象とします)

施策7：町営バス、スクールバスの運行時間及び一体的な運用の見直しを行います
(取得したデータに基づいて町営バスやスクールバスの運用を見直します)

施策8：町内6地区で地域公共交通の利用促進・改善、新たな移動手段導入の取り組みを進めます
(河北町モビリティトライアルのもと、各地区ごとに取り組みを継続します)

施策9：滞在型観光を可能とする町内周遊を目的とした移動手段の実証・実装に取り組みます
(観光・宿泊施設と協力・連携体制構築を図ります)

(3) 指標・目標値の設定

本計画の達成状況を確認するため、評価するための指標と目標値を目標ごとに設定します。この指標や各施策の進捗状況など、方針に向けた取り組みを総合的に確認していくことで、本計画の進行管理を行います。

目標	指標・目標値の考え方	現状	目標値
目標1	公共交通機関を利用して通学した場合の、町内外高校等の滞在可能時間（始発便～最終便）を測定	公共交通機関を通学に用いることが困難	現状以上
目標2	公共交通機関を利用して通学した場合の、谷地高校の滞在可能時間（始発便～最終便）を測定	公共交通機関を通学に用いることが困難	現状以上
目標3	本計画で定めた、地域公共交通ネットワークの形成の実現に必要な運転手数	15人	18人※
目標4	地域公共交通の運行に係る利用者1人当たりの運行経費（河北町内の移動はタクシー利用で最大2,500円程度の運賃に収まる）	バス路線等により金額は違うが、2,500円を超える路線もある	2,500円以下 (現行水準維持)
目標5	河北町モビリティトライアルの実施件数	0件（新規施策のため）	7件

※スクールバスの運行に必要な運転手数は、現状の運行便数での目標値となっています。統合小学校の整備に伴う検討が進み、スクールバスの便数が確定した時点で見直しが必要になります。

5 計画の推進（進行管理・評価・見直し）

本計画の進行管理・評価・見直しについては、河北町地域公共交通活性化協議会が主体となり実施します。本計画で定めたスケジュールに基づいて「目標を達成するために行う施策」の進捗状況を確認することで進行管理を行い、各指標によって「目標」の到達状況を評価することで本計画の施策内容の見直しを適宜行います。「目標」の到達状況も同様に、河北町地域公共交通活性化協議会において毎年度確認することを基本とし、その到達状況は河北町地域公共交通活性化協議会において協議・評価したうえで、施策内容の見直しに適宜反映していきます。